





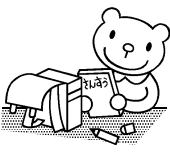



項目		イメージ	低学年（基本形）	中学年	高学年
授業前	準備		<ul style="list-style-type: none"> ●チャイム着席で待つ。 ●ノートの上に教科書、筆箱をのせて待つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●すぐに学習できるよう、ノート・教科書を開いて待つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●復習や予習をして待つ。
	開始		<ul style="list-style-type: none"> ●授業開始・授業終了後 ①姿勢を正す。 ②先生に注目して、適切な挨拶をする。 		
	座り方		<p>「ピン・ピタ・グー」 (背筋を伸ばして、よい姿勢)</p>	<p>★背筋はピン！ ★足の裏は床にピタ！</p> <p>★おなかと机の間はグーをひとつ分あける。</p> <p>○うわばきをきちんと履いて座る。</p> <p>○手は、ひざの上にそろえて置く。</p> <p>○両足は机の下に入れ、床に付ける。</p>	
授業中	ノートの使い方		<ul style="list-style-type: none"> ●指定されたノートを使う。 ●日付を書く。 ●正しい鉛筆の持ち方で書く。 ●下敷きを敷いて書く。 ●定規を使って線を引く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教科に応じて学習のめあて等を書く。 ●字の大きさや書く場所を考えて、見やすく丁寧に書く。 ●大事だと思ったことは自分で書き足す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●板書以外にも、自分の考え等を書く。 ●枠を付けたり、マーカーを使ったり、工夫して見やすくまとめる。
	発言の仕方・話し方		<p>話し方名人</p> <p>あいてを見て いつしよけんめい うんと口をあけて えがおで おわりまで話す</p> <ul style="list-style-type: none"> ●指名されたら、「はい」と返事をして、静かに起立してから話す。 ●聞こえる声で、はっきりと話す。(声のものさしを使って話す。) ●丁寧な言葉遣いで話す。(「～です。」など) 	<p>話し方名人</p> <p>あいてを見て いいたいことが 伝わるように うまく間をあけて えがおで おわりまで話す</p> <ul style="list-style-type: none"> ●友達の考えと比べながら話す。 	<p>話し方名人</p> <p>あいてを見て いを明確に うなずくように えがおで おわりまで話す</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目的や意図に応じて、話しを組み立てを工夫して話す。
	話の聞き方		<p>聞き方名人</p> <p>あいてを見て いつしよけんめい うなずきながら えがおで おわりまで聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ●先生や友達が話しているときは、だまって聞く。 	<p>聞き方名人</p> <p>あいてを見て いいたいことを 考えて うなずきながら えがおで おわりまで聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自分の考えと比べながら聞く。 	<p>聞き方名人</p> <p>あいてを見て いを考えて うなずきながら えがおで おわりまで聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ●必要に応じて、メモをしながら聞く。
家庭で	学習用具準備		<ul style="list-style-type: none"> ●家の人に手紙を渡し、連絡帳を見せる。 ●忘れ物がないよう、前日に準備する。 ●宿題は、すぐにランドセルに入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●連絡帳(メモ)や時間割を見て、準備する。 ●筆箱の中身も点検する。 	
	家庭学習		<ul style="list-style-type: none"> ●目安の時間：10分以上×学年 ●毎日、きちんと家庭学習に取り組み、家の人に見てもらおう。 ●宿題、音読、読書など 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分から家庭学習に取り組む。 ●宿題、復習、音読、意味調べ、漢字、計算など 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分で計画を立てて、宿題や自主学習に取り組む。 ●宿題、復習 ●調べ学習など

【学習用具：準備と使い方】

※全項目、低学年を基本にして積み重なっていきます。 ➡
 ※学習に必要なでない物は、持ってきません。
 ※全ての持ち物に、学年・組・名前を明記します。

項目	イメージ	低学年（基本形）	中学年	高学年
筆箱の中身		①鉛筆4～6本（Bまたは2B） ・シャープペン、ロケットペンは不可。 ・毎日、家で削ってくる。 ②赤・青鉛筆 ③消しゴム（白いプラスチックのもの） ④定規（10～20cm位で透明なもの） ・丁寧なノート作りに必要。 ・筆算するとき、線を引くのに必要。 ⑤名前ペン（黒の油性ペン、細字・極細が両方 ついているもの） ※筆箱は、できるだけシンプルでかさばらない ものが望ましい。	●HBも可	
机の中		★道具箱を使って、学習用具などを整理する。 お泊まりの箱（左側）→学校に置いておく物 ・のり、はさみ、セロハンテープ、色鉛筆 （低学年は、クレパスも。） お帰りの箱（右側）→毎日持ち帰る物 ・教科書、ノート、ドリル、筆箱、下敷きなど。	●左側の箱→コンパス、 分度器、三角定規を 追加する。	
机の上・横		●授業の前：教科書、ノート、下敷き、筆箱を出し、すぐに使えるように 準備しておく。 ●授業の後：次の授業で使う物と入れ替える。（前の時間に使った教科書 などは一番下に入れる。） ●なわとびは、通路側でない方のフックに掛ける。 ●雑巾は、紐付きの洗濯ばさみを使って、机の脚に巻き付けるようにして とめておく。 ※通路側のフックには、なるべく物を掛けない。（通行や清掃時を考慮して）		
ロッカー・フック		●ランドセルは、留め具側を奥にして入れる。 ●校帽は、ランドセルの中にしまう。 ●絵の具セットなどは、児童数やロッカーの数を 考慮して学年で決める。） ●体育着、音楽袋、図工袋、うわばき入れは、 廊下のフックにかける。	●習字道具は、必要な ときに持ってくる。 使用後は持ち帰り、 筆を洗っておく。	
靴箱		●くつは、つま先を奥にして、きちんとそろえて入れる。 ●うわばきには2か所に名前を書く。（つま先：学年、組、姓名 かかと：姓のみ）		

よくわかる授業、学び合える授業づくりのための工夫

ポイント	ポイントの内容	ポイントの具体例・配慮点等	
①見通し	○一日の流れを伝える。	・朝、今日の学習や行事の予定を伝える。	
	○一時間の流れを示す	・授業の始めに、学習の順番（流れ）を伝える。	
	○作業や活動時間を示す。	・その作業（活動）が完了する基準をはっきり伝える。 ・時計を見させて、活動時間を意識させる。	
②明確化	○ねらいを明確にする。	・一時間のねらいをはっきりともつ。 ・授業の始めに、めあてを提示する。（板書等）	
	○発問、指示、説明をわかりやすく、簡潔にする。	・主発問はよく吟味し、厳選する。 ・短く端的な言葉で指示する。 ・必要以上に言い直しをしない。	
③視覚化	○視覚的にわかる工夫をする。	・色チョークの使い方を工夫する。 （例）重要事項：黄色、ライン・囲み：赤、青など ・カードや短冊などを効果的に使う。 ・絵や写真、ICT機器を使い、イメージしやすくする。（興味を高める効果も期待できる。）	
	○一時間の学習内容が見てわかるような板書をする。	・板書計画をしっかりと行い、授業の流れがわかる板書をする。 ・効果的な図や絵、資料を提示する。	
④体験的活動	○操作活動や体験的な活動を取り入れる。	・具体物を使って学習する。（算数：タイル等を使って計算する。社会：校庭に実物大の大仏を描き、大きさを実感させる、等。） ・現地学習を行う。	
⑤学び合い	○ペアタイム（2人で）	・自分の考えを確かめ合う。 ・自分の考えに自信をもつ。	○教え合い、学び合いを通して、考えを広げ深める。友達の考えのよさに気づく。 ○学習のねらいや状況に応じて、学び合いの場を使い分ける。
	○グループタイム（3～6人）	・役割を決めて話し合う。 ・全員発言し、参加する。	
	○クラスタイム（学級全体） ※最後には、マイタイム（個々が集中して自分の考えを深める時間）を取り、個に戻す。	・クラス全体で学習活動に取り組む。（話し合い、作品作りディベートなど。） ・多様な考えに触れる。	
⑥学習の流れの構造化	○同一教科の学習の流れを一定にする。	・流れを一定にすることで、学習の見通しをもたせる。 （体育：準備運動→単元の活動→整理運動 理科：課題をつかむ→予想する→調べる（実験・観察）→考える→まとめる、など。）	

子どもが落ち着いて授業に集中できるようにするための工夫

①前面の掲示



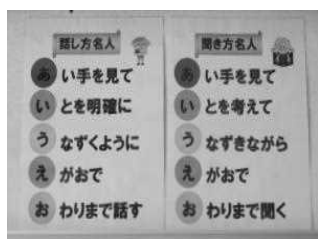
- 黒板や黒板の上には教育目標以外は何も貼らない。(原則)
- 掲示板の掲示物は、常時使う物のみにし、他の掲示物は、側面や後ろの掲示板を活用する。

②教卓やテレビ台の上



- できるだけものを置かず、すっきりと。(常時使う物のみを置く。)

③側面や後ろの掲示板(1)



- 学習規律の定着を図るもの (声のものさし、ハンドサイン、話し方・聞き方名人、話型など。)
- 全学年共通で掲示するものを決めておくとよい。

④側面や後ろの掲示板(2)



- 学力の定着を図るもの(学習内容を整理したもの、新出漢字、地図や年表など。)
- 学習のまとめ(児童の作品)・係活動のコーナー等